
三鷹どろんこ保育園

令和7（2025）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研Advance



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)“感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中で教えてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔を心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	施設長は保育現場に関わり、基本を大切に子どもに寄り添った質の高い保育を目指しています
	内容	どろんこ会グループは目指す理念を実現するために、毎年開催する法人全体研修、施設長会議、動画配信など一連の取り組みにより、理念や方針に対する全職員の理解度が高い状態となっています。園内では次年度計画の策定会議などにおいて園目標や事業計画を共有し活動を明確にしています。今年度着任した施設長は積極的に保育活動に関わり、職員からの意見を聴き、子どもへの言葉遣いを指導するなど、現場に密着してコミュニケーションを図っています。ワンチームとなり、基本を大切に子ども一人ひとりに寄り添った質の高い保育を目指しています。
2	タイトル	就労条件に関係なく職員は協力し、学びの機会が自然にできる組織風土となっています
	内容	職員一人ひとりが自分の得意なことを保育に生かそうという思いがあり、自らの知識を興味のある子どもたちに伝えるために様々な活動を主体的に考え実践しています。就労条件に関係なく職員は協力して業務に取り組む姿勢を持ち、開園当初から在籍している保育経験豊富なパート職員が、経験の浅い職員に分かりやすく指導し、日々の保育活動を見守っています。また、掃除や目の届きにくい部分にも気付き、保育の丁寧さを示していくことで、職員同士の学びの機会が自然にできる組織風土となり、安定した保育活動を実現しています。
3	タイトル	お腹が空くという感覚を大切に、給食の時間が楽しくなるような活動と環境を整えています
	内容	毎朝定刻には戸外活動が始められるようにして、午前中は「どろんこ」になりながら可能な限り、体を十分に動かせる時間を確保しています。お腹が空くことで給食が美味しい、待ち遠しいという気持ちになり、生活リズムも整うように配慮しています。食事は0歳児、1歳児クラスは職員とのマンツーマンから初めて、2歳児クラスは秋頃から3歳児以上の異年齢クラスに合流し、友達と食べる楽しさを経験しています。自分で食べられる量を盛り付け、足りなければおかわりができるようにすることで、食べたいという気持ちが湧くようにしています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業継続計画(BCP)は通信障害があっても機能するよう、より具体的にしていくと良いでしょう
	内容	大災害発生時の事業継続計画(BCP)は「クライシスマニュアル」、「危機管理マニュアル」、「保育品質マニュアル」に対応方針や早期復旧などについて示しています。災害時には法人本部が対策本部となり、社用スマートフォンを活用し園との情報共有を速やかに行い、情報を集約し対応を判断していきます。職員や保護者には連絡用アプリで状況確認や情報発信をする計画です。しかし、通信インフラが機能しない場合でも統制のとれた活動となるよう園の環境を踏まえ、参集候補者や発災後の初期活動をより具体的にしていくと良いでしょう。
2	タイトル	不審者の侵入を防ぎ安全な環境を維持するため、設備の運用に配慮していくことを期待します
	内容	安全対策について様々な対応を実施し、不審者の侵入を防ぎ、安全な環境を維持するために防犯モニターの設置や園への出入口を二重構造にしています。しかし、利用者調査に、園敷地入口の門扉上部補助錠の閉め忘れや道路に面したカメラ付インターフォンでのオートロック扉が閉めたつもりなのに開いている場合が指摘されています。万全を期して、門扉が閉まっていない時にはアラームが鳴るなどの機能があることや保護者への協力依頼を伝えることも良いと思われます。また、不審者侵入の状況を想定した訓練を年2回実施しています。
3	タイトル	保育参加や地域子育て支援事業「ちきんえつぐ」への、参加推進を目指す取り組みを期待します
	内容	様々な保護者参加の行事がある中で保育参加については、他行事などと重ならない限りは年間を通して受け入れる体制を整えています。参加者数が少ない状況が続いています。保育参加は保護者が保育に参加することで、保育者の視点から子ども同士の関わりが見え、新しい気付きに繋がることから参加を推進する働きかけを期待します。また地域子育て支援事業である「ちきんえつぐ」についても、参加者数が少ない日があることから、園外への広報を充実し、子育て世代が興味をもつ内容等を再検討して、更に参加者が増えていくよう期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル①	園目標を設定して、子ども一人ひとりを尊重した保育の提供を園全体で取り組んでいます	
内容①	<p>「子どもまんなか～歩み寄る気持ちでGoodコミュニケーション～」を今年度の園目標に掲げており、目標に沿った保育の提供に向けて職員が同じ意識を持つことを目指しています。子どもをまんなかにする事で、子どもの目線や気持ちに寄り添いながら、子ども主体の保育を基本姿勢として、日々の保育を提供できるよう努めています。大人主導、大人都合ではなく、子ども一人ひとりの発達を考慮し、興味、関心を職員が感じながら読み取り、子ども同士のやり取りを見守ることで、可能性や好奇心が広がり成長へと繋がるよう支援しています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる
タイトル②	年間を通して人権擁護に取り組み、職員の意識を高め最善の利益を提供しています	
内容②	<p>定期的に年2回「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を用いて人権に関する研修を実施し、子どもの尊厳を守る保育を実践しています。毎月の園会議の中ではコンピテンシー(高い成果を出す人の行動特性)を確認し、保育者としてどのように業務にあたるべきかを確認する機会としています。職員に保育品質マニュアル、コンピテンシー冊子を配付し、Webなどで人権に関する情報を発信して常に意識を高めています。また、虐待対応マニュアルで定義を明確にし、少しでも疑わしい言動があった場合には即施設長に報告し対応していきます。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	外部講師の指導を取り入れるなど、多方面から子どもの育ちを伸ばす環境を整えています	
内容③	<p>4歳児、5歳児クラスは、身近な事象や季節の歌に親しんでいます。リズム体操や体操は、職員が成長や興味に合った内容を提供し、健康な体作りへ繋げています。生物の得意な職員が「理科教室」を開催し、生き物の観察や、図鑑やプロジェクターで自然について学ぶ機会を設けています。園内ではニワトリや昆虫を飼育し、世話をする中で命について触れる機会を設けています。希望制ですが、近隣の水泳教室への送迎も行うなど、子どもたちが様々な経験を通して健やかに育つよう支援しています。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	理念や方針について、様々な方法で職員や保護者の理解を深めています どんこ会グループは目指す理念を実現するために、毎年開催する法人全体研修、施設長会議、動画配信などで理念や課題、取り組み方針を明確に示し、全スタッフの理解を深めています。園では次年度計画の策定会議や、3月の新年度キックオフミーティングなどにおいて園目標や事業計画を共有し、各種マニュアルを整備し活動を明確にしています。新卒職員には内定式や内定者研修等で伝えています。保護者には入園のしおりを用いて説明し、園ホームページや保護者参加行事においても丁寧に伝え、玄関には資料を配置し常に関覧可能にしています。	
	施設長は園目標を掲げ、子どもを中心に主体的な行動をする姿勢を目指しています 今年度の園目標は「子どもまんなか～歩み寄り気持ちでGoodコミュニケーション～」を掲げ、常に子どもを中心に考えた保育を行い、職員同士も歩み寄り気持ちを持ち、チームワークを高めていくことを目指しています。施設長は話し合う機会を大切にし、自身の取り組み姿勢や対応の一貫性を意識し、どんこ会グループの運営本部が発表する基本方針を基に事業計画をまとめ、職員個々の目標設定にも反映しています。会議等において進捗状況を把握し、半期ごとの個別面談では適切なサポートをし、主体的に行動する職員集団を目指しています。	
	検討し決定すべき案件は、園会議などで多様な意見を把握し決定しています 検討すべき案件については、まず施設長と主任で状況確認と課題を共有し、リーダー会議でその対応を話し合います。その後、内容に応じた会議で話し合いを進め多様な意見を把握し、園会議で周知しながら対応策の理解を図り、最終的に施設長が決定する事を原則としています。その内容や経緯は会議議事録を作成し、全員が確認押しし伝達漏れを防止しています。保護者への周知は、随時連絡用アプリのおたよりで配信し、資料掲示や園ホームページの園だよりに掲載しています。送迎の時などに改めて口頭で伝え、必要に応じ個別対応をする場合もあります。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-2の講評

保護者や職員からの情報や意見を確認する機会を設け、園運営に反映しています

利用者アンケートは毎年実施し、保育内容や運営全般に対して保護者の意見を定期的に把握しています。また、懇談会は6月と11月に全体とクラスごとの話し合いを行っています。送迎時の会話や連絡用アプリの連絡帳、希望者との個別面談や意見箱から、常に情報や意見を把握し園の運営に反映しています。職員からの意見や提案は、年3回の個人面談時に目標設定、進捗状況確認、振り返り、意向確認等を行い、9月にはキャリアデザインアンケートを実施しています。各種会議での職員の様々な発言を受け止め、業務改善に結びつけています。

2025年からの3カ年計画と単年度事業計画を策定し、取り組みを明確にしています

中期の視点でとらえた2025年から3年間の3カ年計画と、どろんこ会グループの基本方針を推進するために、園の単年度事業計画書を策定しています。3カ年計画は選ばれる園となるため、子どもも大人も自立した集団となり保育の質を高めることを目指しています。単年度事業計画書には園目標を定め、7つの重点取り組みを明確にしています。2～3月に開催する策定会議では職員が活発に話し合い、理解を深めています。計画推進は園会議や職員との個別面談等で進捗状況を確認し、事業報告書は1年間を振り返り、項目ごとに明記しています。

選ばれる園になるために求められている福祉ニーズを理解し、園運営に反映しています

園舎内の地域子育て支援施設「ちきんえっぐ」の利用者や園見学者とのコミュニケーションを積極的にとり、園に求められている地域福祉ニーズを把握しています。福祉事業全体の動向については、施設長会議、法人研修会、Web情報、行政情報等から得ており、選ばれる園となるため園運営に反映しています。毎月の経営状況は予実管理表で月次管理し、年間を通じて収支バランスの適正化などに注力しています。経営に影響する定員に対しての入所率については、園見学者対応を1日1組に限定して施設長が丁寧に説明し、事業計画実現を目指しています。

3 経営における社会的責任			カテゴリー3
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ3の講評

各種マニュアルと研修などにより、コンプライアンスを明確にした運営を行っています

全職員に保育品質マニュアル、コンピテンシー冊子(高い成果を出す人の行動特性)を配付し、Web情報などでも守るべき法、規範、倫理を示しています。また、「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」によって、子どもの人権を養護する行動を確認し、保育者としてどのように取り組むのかを学び、園会議において「コンピテンシー研修」、「情報セキュリティチェック」、「コンプライアンスチェック」を定期的を実施し理解を深めています。どろんこ会グループの内部監査が定期的を実施され、職員の意識は非常に高くなっています。

苦情解決体制は常に周知し、ICT機器の活用などで組織的に迅速に対応しています

「入園のしおり」に苦情解決体制として、解決責任者、受付担当者、第三者委員を設置し組織的に迅速に対応することを明記し、玄関にも「本園における苦情解決につきまして」の資料ファイルを設置し、保護者が確認できるようにしています。苦情や意見などは電話、口頭、メール、書面、園玄関設置の意見箱等で受け付け、施設長へ申し出る事を基本にし本部や第三者委員にも相談できる事を伝えています。申し出があった場合は、本部担当者と即時共有し、社用スマートフォンのチャット機能を使用して園内共有をし、改善に向けての対応に結びつけています。

人権擁護のための研修を繰り返し実施し、本部や行政機関と連携し迅速に対応しています

人権擁護は3月開催のキックオフミーティングでの研修や、4月と10月に「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」に基づき振り返り、虐待防止研修を実施しています。マニュアルによって職員の不適切な言動への認識を深め、不適切な言動を感じた場合は内部通報システムを使用し本部と情報共有しています。園で虐待と疑われる情報を得た時には、本部や関係機関と迅速に連携し対応していきます。地域福祉ニーズに応え、子育て支援拠点として青空保育や育児相談等を実施し、実習生やボランティアは延べ70名ほど受け入れています。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>マニュアル再読や避難訓練を毎月実施し、危険察知能力を高め再発防止に努めています</p> <p>全職員は毎年5月までに「保育運営マニュアル」を再読し、リスクへの対応を確認しています。その上で子どもの命を最優先に避難訓練、不審者侵入対応訓練等、毎月様々な訓練を実施しています。交通安全に関しては地域の警察署が協力して年2回実施し、防犯に関するアドバイスも受け、消火訓練は消防署と連携し年2回実施しています。戸外活動時での見失いや置き去り事故防止のために複数体制で何回も人数チェックを実施しています。リスクマネジメント研修では危険察知能力を高め、重大事故情報は事故防止委員会にて共有し再発防止に努めています。</p> <p>大災害時の事業継続について、対応方針や早期復旧のための初期活動を示しています</p> <p>どろんこ会グループの「クライシスマニュアル」、「危機管理マニュアル」、「保育品質マニュアル」に大災害発生時の事業継続の対応方針や早期復旧を目指すための初期活動をフローチャートにし示しています。保護者には災害時の対応について重要事項説明書や保護者懇談会で周知しています。災害時には法人が対策本部となり、社用スマートフォンを活用し園との情報共有を速やかに行い、情報を集約し対応を判断していきます。職員や保護者には連絡用アプリで状況等を発信する計画ですが、念のため通信インフラが中断時の計画があると良いでしょう。</p> <p>各種規定の整備、職員研修、設備導入等により、機密情報保護対策を講じています</p> <p>情報管理については秘密情報管理規程や特定個人情報取扱い規定などを遵守し、年2回「情報セキュリティチェック」を実施しています。現状多くの資料をデジタル化し、セキュリティ対策をした園内と本部のサーバーを使用し、パソコンや貸与したスマートフォンには職員の個人アカウントとパスワードを設定し、園業務管理システム等へアクセスするパソコンを限定しています。外部記憶媒体の使用禁止、画像データは使用后1週間以内に削除する等、機密保持に注力しています。紙資料は鍵付きの棚に整理保管し、鍵は施設長が厳格に管理しています。</p>		

5			カテゴリ5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリ1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

どろんこ会グループの採用活動は求める人物像を明示し、共感した人材を採用しています

どろんこ会グループが求める人材の採用活動は本部人事採用部に一本化し、本部ホームページに採用方針、求める人物像、職員へのインタビュー、研修制度、採用イベント情報などを掲載して入社説明会のエントリーを受け付けています。さらに園見学、個別面接を行い、理念に共感した人材を採用していきます。また、必要に応じ求人サイトを活用した募集も行っています。異動や配属については職員との個別面談によって、個人の思いや意向を確認し、運営本部担当者と共に、職員との成長と定着に結び付くよう総合的に判断し決定しています。

人事考課制度と連動し、キャリアデザインアンケートで目指す姿を確認しています

どろんこ会グループは独自の人事考課制度を導入し、等級ごとに職務や職責、昇級や昇格の基準を明確にしています。同時に目標管理制度に事業計画書と整合性があるように個人の取り組みや目標を設定し、その達成状況から評価、昇級などを行っています。キャリアパスの取り組みは、事業計画書の重点項目として「次世代を担う職員育成」を位置づけ、人事考課制度とキャリアデザインアンケートによって、将来目指す姿を施設長と共に、個別指導や研修受講等に連動しています。これらの取り組みは職員の意欲を高め、成長に繋がっています。

職員の働きやすさとコミュニケーションに配慮し、チーム保育を実践しています

勤務シフト表作成時には職員の希望休を確認し可能な限り反映するなど、就業状況は適正なワークライフバランスや働きやすさに配慮し、残業時間削減、有給休暇取得、休憩時間確保などに取り組み、会議やミーティングを増やしたことで職員間のコミュニケーションが円滑になり、子どもの情報共有が迅速になっています。研修の機会は多く、得た知識は全員で共有し、施設長との面談でアドバイスを受けスキルアップするなど、人間関係が良好で働きがいのある職場環境となり、協力してチーム保育を実践する職場となっています。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 前年度の重要課題として、子ども自身が選択して活動ができるように園環境の見直しに取り組むこととしました。課題とした背景には、運営本部が策定した運営ミッションとして「原点回帰」を掲げ、職員一人ひとりが保育活動の取り組みやねらいを理解し、日々の保育実践に適した環境整備をする必要がありました。取り組みは、職員研修を実施し、子どもが生活力をつけるために保育者は何をしたらよいかを学んでいきました。物的環境の見直しとして、子どもが自ら選択して活動ができるように、園庭と保育室の見直しに着手していきました。取り組みの結果、園庭の改良は、築山を高くし、泥場をつくることで思い切り遊べる空間にしました。室内環境では、乳児クラスは子どもの発達に合わせた変更を行い、幼児クラスは静と動のメリハリを付けたゾーンを決めるなど、細やかな見直しを行いました。その結果、子どもたちは楽しむことができ、体力面での成長やアイデアを出し工夫することも身に付いてきました。今年度においても引き続き職員の意識を高め、研修に力を入れると共に環境整備を図り、多くの経験の機会を用意することで「子ども自らが選択しやってみる」の実現を目指しています。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 職員研修は施設長と主任が中心となり、園会議の中で3か月ごとに取り組み内容やねらいを説明し、振り返りの話し合いを行ってきました。しかし、会議の頻度や時間が少なかったことから、職員全体との共有や、十分に浸透することができず課題として残りました。園庭の改良は盛土を高くするための作業と多くの土を確保することに苦労しましたが、完成後はドロンコスライダーができるようになり、子どもたちはそれまで以上に築山を楽しむことができるようになり、体幹が強くなり、安全に遊ぶ意識が育ちました。一方、日々の使用で土が流れてしまったため、継続して整備をする必要を感じています。室内環境はリーダー層を中心に検討を重ね、動のゾーンを整備したことで、遊びのアイデアが広がり、運動遊びが活発化していきました。静のゾーンについて乳児クラスでは使いやすい棚の配置や興味を示す玩具を増やし、幼児クラスでは手先の発達に繋がるハサミを設置し、自由に使えるようにしました。2025年度は園会議での話し合いの時間を増やし、全職員が参加できる機会を増やしています。経験の少ない職員もできることを一人ひとりが考え、個人目標に取り入れ、園全体の取り組みになる事を目指しています。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の二つ目の課題として、どろんこ会グループの基本方針である「6つの力」を育て身に付けていくために、「日課」の取り組みを習慣化することとしました。課題とした背景には、職員の入れ替わりがあり、取り組みが少し弱くなっていたためです。毎朝「さくらさくらんぼリズム体操」と「雑巾がけ」を子ども職員も時間を厳守し、取り組んでいきました。さらに、職員主体になっていた「畑仕事」を子ども中心に切り替えていくため、調理職員と幼児担任が援助し、子どもが主体的に種まき、水やり、収穫などの一連の作業を実施できるようにしていきました。取り組みの結果、リーダー職員を中心に、今まで定着していなかった「日課」を習慣化することができてきました。また、時間についても強く意識したことから保育活動全体の展開がスムーズになりました。その結果、職員が連携して組織的に日々の保育活動に取り組む姿が見られるようになり、「6つの力」や「日課」の意味、重要性についての理解が深まりました。今年度においては、引き続き職員の意識を高めて「日課」の取り組みに力を入れ、様々な経験を通して子どもが成長できることを目指しています。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員が入れ替わったことで習慣化していたことができなくなり、新しい職員に「6つの力」や「日課」の意味、重要性が正しく伝わっていない状況が散見されました。そこで施設長や主任から伝えるだけでなく、リーダー層からも、園が取り組んでいる「日課」について伝えていくようにしました。リーダー層は新しい職員に園の取り組みを伝えることで、自らの振り返りができるようになり、理解をより深める効果もありました。「日課」などの実践により、乳児は6月になると主体性や自発性が育ち、目的を持った行動となり、乳児であってもリズム体操に興味を持ち、主体的に参加をしています。幼児はけがが減り、体力が付き長距離の散歩ができるようになるなど、日々の子どもの成長を実感し職員の理解が進んでいます。一方、「日課」の充実を目指すために職員間の情報共有が課題だと感じており、振り返りの機会を増やしています。今年度の新たな取り組みとして、生ごみや落ち葉などを微生物の働きで分解し、発酵させて堆肥を作ることに挑戦しています。バケツをコンポストとして活用し、食物循環を経験しています。職員全員が思いを一つにして、子どもの成長に繋げています。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>ホームページやパンフレットなどを活用して園の基本姿勢について情報を提供しています</p> <p>ホームページは住所、定員、利用料金などの基本情報や、サービス内容について利用者に分かりやすく簡潔に伝えるような工夫をしています。また、園だより、年間スケジュールなどのおたよりを掲載して、日々の保育についての理解が進むようにしています。入園のしおりは主に園見学者などに配布しており、運営理念、保育目標など、どろんこ会グループの保育における基本姿勢に加えて、裸足保育、雑巾がけ、畑仕事、異年齢保育、銭湯でのおふろの日など、特徴的な保育を丁寧に説明して、園の姿勢を伝えています。</p> <p>行政のホームページからも園の情報を入手できるようにして、利便性にも配慮しています</p> <p>市の子育て支援サイトには、本園のホームページへのリンクがあり、入園を希望する人が本園を含む、複数の園の情報を入手しやすい体制作りを行政と協力して整えています。園開放、子育て相談など子育て支援事業の情報は、園の正門近くにある掲示板に「ちきんえっぐだより」を掲示して、毎月の行事を告知しています。行政には毎月の空き状況を報告して、地域で保育を必要とする家庭がスムーズに保育園へ入所できるよう連携を取り、必要な家庭へ向けて支援を提供する体制を整えています。</p> <p>園見学希望者には、実際に園舎内を案内しながら保育内容について説明をしています</p> <p>毎年多くの見学希望者があり、希望日を確認してなるべく多くの人を案内できるようにしています。見学者には園のしおりに沿って日課、座禅、雑巾がけなどの特徴的な保育内容についての説明を行い、どろんこ会グループが目指している保育について理解が深まる機会にしています。「足指で地面をとらえる力を育てる」ことを目的とした裸足保育の導入、3歳児以上のクラスは毎月1回銭湯の日があること、命の教育に取り組んでいることなど保育の特徴を写真等を見せながら説明し、質問に応じることで、入園後、理解に差異が生じないようにしています。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園のしおりや重要事項説明書を示して、園生活上の基本的なルールを説明しています</p> <p>入園前面談では入園のしおり、重要事項説明書の読み合わせを実施しています。保育方針、目標、保育内容など園が目指す保育の取り組み、利用料金、延長保育の時間、登園の際に医師の診断書が必要な疾病などの説明を行い、集団生活における基本的なルールを確認しています。面談の最後には重要事項説明書において、説明漏れがないかを保護者とチェックし、再確認をして伝え忘れないようにしています。持ち物については、実際に在園児が使用しているものを見本として示しながら説明をすることで、保護者の理解が進むよう配慮しています。</p> <p>面談にて、保護者の希望や就労状況を把握し、個別に慣れ保育期間を設定しています</p> <p>入園前面談では保護者からの意向や要望、配慮してほしい点について「入所前面談票」を作成していきます。クラス担当者を中心に園全体でしっかりと内容を把握をし、新生活に馴染めるよう環境を整え統一した関わりに繋げています。慣れ保育についても、保護者の就労開始時期や子どもの集団生活経験の有無などを面談で把握し、保護者の要望に沿って期間を決定しています。子どもの様子を見ながら次の日の保育時間を相談するなど臨機応変に対応すると共に、連絡帳や口頭で保育中の様子を丁寧に説明し、保護者と共通認識を図れるようにしています。</p> <p>小学校へスムーズに移行できるよう、近隣の小学校と連携して入学準備を進めています</p> <p>小学校入学へ向けて、年間を通して近隣の小学校と連携を取り、スムーズに移行できる体制を整えています。小学校での行事見学、在校生との交流会を実施して、入学を少しずつ意識できるように働きかけています。職員も公開授業見学、連絡会に出席するなど、学校からの情報を積極的に把握し、園での活動に反映しています。また、卒園後も園に遊びに来られるよう、「どろんこ祭り」などの行事に招待をして、継続して子どもたちの成長を見守り、園を中心に子どもや保護者の交流が続き、地域の子育てに貢献できるよう支援しています。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

入園後の子どもの成長は所定の様式に記録して、発達に合わせた保育を提供しています

0歳児から2歳児クラスまでは毎日の個別記録と、毎月の個別計画を立案し、個々の成長に合わせた支援方法を職員間で共有しています。記録の際にはエピソード記録を取り入れることで、子ども一人ひとりの個性、興味、関心に注視し、子どもの変化をしっかりと把握し、今後の支援や関わりに繋げていける体制を取っています。3歳児以上のクラスは3か月に一度子どもの様子についての振り返りを実施して、子どもの成長過程をクラス担当者間で共有し、発達に合わせた遊びや活動を提供しています。

全体的な計画を基に連動性を持って年間保育計画などを立案し、成長を支援しています

全体的な計画は職員の意見を集約した園目標を記載して、同じ方向を向いて保育ができるようにしています。今年度の園目標を「子どもまんなか～歩み寄る気持ちでGoodコミュニケーション」として、再度子ども主体の保育に立ち返るという姿勢を反映させました。全体的な計画には、卒園までに目指す10の姿を計画に落とし込み、成長を着実に支援できる計画にしています。年間、月間の各種保育指導計画、日案なども全体的な計画と連動性を図り、年齢や発達に合った活動を提供することで、どろんこ会グループの目標である「にんげん力」を育てます。

各種会議では、各クラスの子どもの様子を共有して園全体で支援方法を検討しています

園会議、乳児・幼児会議、各種会議では、それぞれのクラスにおいて配慮が必要な子どもについての情報共有を行い、支援方法を検討しています。隣市にある同法人の「子ども発達支援センターつむぎ」と定期的に交流をして、職員会議にも同席し多職種の意見を反映させながら、個々の子どもの特性に合わせた支援方法を模索できる体制を整えています。ケース会議では、支援方法の統一化、特性に合わせた環境設定などについて、事例を挙げて検証をする機会とし、クラスの垣根を越えて園全体で子どもへの理解を深めることができるよう努めています。

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>どろんこ会グループにおける、個人情報保護の基本姿勢を入園時に説明しています</p> <p>個人情報保護におけるどろんこ会グループの基本姿勢については、入園時に使用目的、情報の種類、情報管理および第三者への情報提供などについて保護者に説明をしています。子どもに関する情報を外部に照会する際には限定的に留めると共に、厳重な管理下で行うこととしています。緊急時に警察署、児童相談所などの行政各所や医療機関などへ情報を開示する際には、保護者の同意を得ることを基本としています。園内における写真、動画の掲示、ホームページなど外部媒体への使用についても、保護者の意向を確認、尊重する体制を整えています。</p> <p>子どもの人権や羞恥心に配慮し、一人ひとりへの丁寧な関わりを目指しています</p> <p>子どもの羞恥心への配慮としては、オムツ交換などは他児や外から見えない場所で行い、トイレなどの失敗においても周りに気付かれないようにしています。5歳児クラスには性教育を実施してプライベートゾーンについてや、命の大切さを伝える時間を設けています。今年度の園目標である「子どもまんなか」には、子ども一人ひとりの主体性を尊重した丁寧な関わりについて、再度意識をしていけるようにという想いを込めて設定しています。職員の意識を更に高めていくことで、子どもの個性を尊重し、一人ひとりに寄り添った保育を目指しています。</p> <p>毎年2回、人権チェックリストを活用した保育の振り返りを実施し理解を深めています</p> <p>毎年2回「保育品質マニュアル」にある人権チェックリストにて、日頃の保育の振り返りを実施し、子ども主体の保育の視点について再確認ができる機会としています。どのような行為が虐待に繋がるのか、虐待の定義について理解を深めることで、不適切な保育に繋がらないよう園全体で取り組んでいます。日々の散歩、商店街ツアー、遠足や銭湯などの戸外活動では、危険時における注意の仕方についても強い口調になっていないかなど、日頃から意識をしていくことで、周囲からの見え方についても考えられるようにしています。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>「保育品質マニュアル」を業務の中で活用して、保育の提供を行う体制を整えています</p> <p>どろんこ会グループ共通の「保育運営マニュアル」を各園に1部ずつ設置して、日々の業務についてはマニュアルを基本とした活動をする体制を整えています。職員には「保育品質マニュアル」を入職時に配布して、園運営全般、保育におけるフローなどは、マニュアルに沿って統一の対応を取るようにしています。「保育品質マニュアル」は職員会議などで読み合わせを実施して、内容を理解した上で業務に携われるよう周知に努めています。夏のプールや避難訓練前には、必要な個所について事前に読み合わせをして、手順や役割分担を確認しています。</p> <p>どろんこ会グループでは毎年の内部監査を実施して、定期的に業務の見直しをしています</p> <p>どろんこ会グループによる内部監査は年2回、命や安全に関わること、保育内容、環境など園運営と保育における各分野において、マニュアルに沿って適切に運営が行われているか、第三者的な視点から園環境の確認を行っています。監査で指摘を受けた内容はすぐに改善をすると共に、再発防止に向けて、手順を見直すなどの必要な対策を講じられるようにしています。マニュアルの中でも、けが、病気、衛生管理など対応の流れを示すフローチャートは、ラミネート加工をして事務所の所定の場所に掲示や設置をして、いつでも確認ができるようにしています。</p> <p>保護者や職員の意見を反映させながら、より良い園運営を目指しています</p> <p>毎年利用者アンケートを実施することで、園への意見などを聞き取る機会にしています。アンケートで挙げた意見については、会議等で共有して改善が必要な場合には迅速に対応をしています。職員は年度末に子どもの成長や発達などを確認し、一人ひとりに合わせて次年度に提供したい保育を話し合いながら決めています。毎年の子どもの姿を反映させることで、子ども主体、成長や個性を踏まえた保育について園全体で考察する機会にしています。今年度の行事についても、職員の意見を反映させながら、子どもたちの今の姿を反映できる内容にしています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
	●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの成長を全職員で共有して、各クラスのねらいに沿った保育を提供しています</p> <p>子どもの成長過程についてはクラス日誌、個別記録などの所定の書式に記録をし、各種指導計画の立案時には一人ひとりに省察を実施して、クラス担当者だけでなく全職員で子どもの育ちを把握していきます。職員は保育に入る前に、保育業務支援システムで当日の連絡事項と、月案や週案のねらいがどの活動に反映されているか確認をすることで、日々統一感がある保育活動を実践しています。月案、週案、日案を立案していく際にも、子ども一人ひとりの成長についての省察を実施し、子どもの今の姿を把握した上で、計画に反映して成長を支援しています。</p> <p>異年齢保育を導入して、お互いの存在を認めながら育ち合える環境を整えています</p> <p>3歳児以上のクラスは基本的に異年齢での活動を取り入れて、同年齢のみの関わりではなく、年齢の垣根を超えてお互いが認め合いながら育つ環境設定にしています。2歳児クラスも10月頃より幼児の異年齢クラスに加わり、少しずつ交流する時間を増やして進級に向けた準備を進めています。異年齢の活動では年齢による発達の違いや、それぞれの子どもの成長過程、個性や興味、関心をしっかりとクラス担当者間で把握し合い、同じ空間でどのようにしたら楽しく、安全に過ごせるか連携を取りながら、日々の保育を組み立てています。</p> <p>小学校進学へ向けて、各所と連携を取りながら入学を楽しみにできるように支援しています</p> <p>小学校進学へ向けては「小学校接続連携計画」に沿って、情報収集や入学に向けた必要な支援をしっかりと行い、保護者にも情報を共有しています。近隣の小学校の運動会のリハーサルの見学や、学校見学の実施を通して、進学へ向けての期待感が持てるよう支援しています。園内活動ではニワトリの世話や雑巾がけに毎日取り組むことで、自分達の「仕事」に対して責任を持つこと、友達と協力しながら成し遂げていくこと、自分の係や手伝いを主体的に継続して行うことができるよう、職員も一緒に関わりながら支援しています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時は子どもの様子を注意深く観察して、いつもと変わりがないか確認をしています</p> <p>登園した際は顔色や覇気があるか、あざやけがないか様子を確認すると共に、検温と保護者に口頭でも家庭での様子を聞き取っています。保護者からの伝達事項は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記入して、クラス担当者に申し送りをし、保育業務支援システムにも情報を入力して共有しています。体調が優れない様子の子どものについては、検温や体調確認を増やして体調悪化の兆しを見逃さないようにしています。</p> <p>子どもの発達状況に応じて、新しい生活習慣を習得できるように支援をしています</p> <p>トイレトレーニングを始める際には、家庭の様子と保護者の意向を把握して、子どもの排泄リズムに合わせて無理なく始める体制を取っています。子どもが新しいことに興味を湧くように、少しずつトイレに座る時間を確保するなど、一人ひとりのペースに合わせて対応しています。衣服の着脱では自分でやりたいという気持ちを尊重し、できないところを保育者が手伝うという姿勢を基本としています。生活リズムが整いにくい0歳児、1歳児は月齢やその日の様子に合わせて午前寝もできるように配慮をして、無理なく過ごせる環境を整えています。</p> <p>降園時には保護者に子どもの様子を伝えることで、信頼関係の構築を図っています</p> <p>降園時には3分を目安にその日の子どもの様子を伝える「3分対応」を取り入れて、一人ひとりの保護者に一日の生活について共有しています。お迎えが重なる時間には、保護者を待たせてしまうことや十分な時間が取れない、担任が必ずしも対応できないなどの課題もありますが、保護者との関わりを大切に、信頼に繋げていけるよう努めています。2歳児クラスまでは連絡帳や連絡用アプリで活動の様子を配信する「タイムライン」を活用して、園の様子を毎日分かりやすく伝え、成長過程について保護者と共有できるよう働きかけています。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大きさに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

どろんこ会グループの特徴的な保育を通して、子どもの健やかな育ちを支援しています

座禅、雑巾がけ、リズム体操、生き物の世話、畑仕事、銭湯の日、商店街ツアー、裸足保育などのどろんこ会グループの特徴的な保育を通して、けがをしない強い体、自分でできることは自分でやろうとする力、生死や食の循環を知るなどの「私たちが育てる6つの力」を育てています。畑仕事や雑巾がけなどは「仕事」として位置づけをして、日々取り組むべき労働であり、他者の為にすべきこととして、職員と一緒に取り組んでいます。リズム体操は、参加の有無は自分で決めますが、主体性を尊重しながらも徐々に集団に参加できるよう支援しています。

各保育室にゾーンを設けて、子どもが集中して遊び込める環境設定にしています

各保育室は年齢に合わせた遊びを配置したゾーンを設け、子どもが好きな場所で、好きなおもちゃを選んで遊べる環境にしています。3歳児以上のクラスは異年齢クラスになることから、広い保育室の中での安全にも配慮し、ブロック遊び、新聞紙、布などの廃材を活用した制作ができる場所、机上でパズルができる場所など各ゾーンを設定し、さらに柵などで仕切りを作ることで遊びに集中できる空間にしています。ごっこ遊びや、見立て遊びができるよう紙、布などの素材や手作りおもちゃを揃えて、子どもたちの自由な発想で遊びが展開する環境にしています。

戸外活動では五感を使い、子どもたちが自然からの学びを体験できる機会にしています

園庭には築山、畑、ビワ、ザクロ、カキなどの木があり、自然豊かで安全な場所で伸び伸びと体を動かせる環境を整えています。生き物の世話では命の大切さを知り、野菜や花の栽培を通して食物を育てることの大変さを学んでいます。戸外活動では子どもに体験して欲しい内容を、職員間で話し合い、成長や目的に沿って活動を検討し、心身共に健康な体作りを支援しています。散歩、遠足などの戸外活動では四季折々の自然の変化や焚火体験などを通して、子どもの五感を刺激する様々な事象を経験し、成長に繋げていくことを目指しています。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は毎年の子どもの姿を踏まえて内容を考察して、参加意欲が沸くようにしています</p> <p>行事の開催にあたっては年度末に職員間で、どのような目的を持って取り組んでいくか話し合い、日頃の保育の中で子どもの興味があることを反映しています。各クラスの担当者が「子どもたちにとって何が必要か」を考えて立案をすることで、行事の経験が成長に繋がるように配慮すると共に、友達との関係性も深まるようにしています。行事に主体的に参加できるよう、絵本や好きな遊びを盛り込み、同じテーマを設けて年度内の行事を発展させていくなど様々な工夫をすることで、子どもたちが楽しんで参加できるようにしています。</p> <p>友達と一緒に行事を楽しむことで、やり遂げた達成感を感じられるよう支援しています</p> <p>行事では集団活動を楽しめるような内容にしており、どろんこ祭りではヨーヨー釣り、宝さがしなどのゲームを友達と一緒に楽しむ姿が見られています。運動会ではパラバルーン、リレーといった集団競技を行い、友達と協力して一つの事を成し遂げる過程を経験し、上手いかない時にはどうしたら良いのか、試行錯誤しながらお互いが成長し合える機会にしています。集団での活動に中々参加できない子どももいますが、無理に合流を促すのではなく見学から始めて、興味が湧いたら少しずつ参加してみようという気持ちになるよう支援しています。</p> <p>行事の目的を保護者に説明して、頑張りや、成長している姿への理解に繋げています</p> <p>年度初めに年間計画を保護者に配布して、保護者が行事に参加しやすいように配慮しています。保護者には子どもたちの行事の取り組みの姿勢と併せて、行事における目的、意義を丁寧に説明することで、成長していく姿を共有できるように働きかけています。取り組みの様子については、毎日配信しているタイムライン、ドキュメンテーション等を活用して伝えており、当日の姿のみではなく過程についても理解が進むようにしています。行事は保護者の中から手伝いを募集しており、協力を得ながらより良い行事を作り上げています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長い子どもも、落ち着いて無理なく過ごせるような環境設定にしています</p> <p>午睡後の時間も散歩に出かけられる日は外に出る体制を整えて、静かに過ごしたい子どもと体を動かしたい子どもの両方の希望を尊重しています。外に出かけられない日は、静かに遊べる空間と、活発に遊べる空間を分けて、自分が好きな場所を選んで集中して遊び込めるよう配慮しています。疲れた様子が見られる子どもには一人になれる場所を確保して、静かに過ごせるようにして、無理なく一日を過ごすことができるよう配慮しています。夕方の時間は自分の好きな場所で、好きな事をして自分のペースで過ごせるようにしています。</p> <p>夕方の時間は少しずつ合同保育に移行することで、安全に過ごせるよう配慮しています</p> <p>夕方17時過ぎからは、0歳児、1歳児クラスが上のクラスに合流をして、全園児での合同保育を取り入れています。園全体を大きな家として、異年齢同士で自由に遊ぶ中で、年上の子どもが年下の子どものお世話をする姿が見られています。少しずつ人数が少なくなっていく中でも、不安やさびしさを感じることがないよう、職員の関わりを密にすることで、家庭的な雰囲気の中で落ち着いて過ごすことができるようにしています。19時過ぎに夕食を提供して、職員も一緒にテーブルに座り見守ることで、くつろぎながら過ごせる時間になっています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>昼食はバイキング形式を採用して、自分で適量を盛り付けて食事を楽しんでいます</p> <p>2歳児クラスからバイキング形式の給食を採用して、子ども自身が食べられる量を自分で盛り付けし、好きな席に座って食べられる環境にしています。毎日9時には散歩や園庭遊びなどの戸外活動を始めて体を動かすことで、お腹が減り、食事を美味しく食べられるような生活リズムを大切にしています。バランスの良い食事をしっかりと摂ることで、健康な体作りに繋がっています。0歳児、1歳児クラスはマンツーマンの食事から始めて、少人数のグループに移行し個々のペースに合わせて、落ち着いて食事に集中できる環境にしています。</p> <p>給食を楽しく食べられるよう、日々の食事の提供において多職種で検討をしています</p> <p>毎月の給食会議では各クラスの喫食状況について把握をして、食材の大きさ、固さ、食べやすさなどを厨房職員を含めた多職種で検討して改善に繋がっています。給食は素材の味を生かした味付けをして、旬の食材とお米はどろんこ会グループが新潟で自給自足している安心、安全なものを提供しています。子どもたちが野菜洗い、米研ぎを日課に取り入れることで食べたいという意欲が湧くように働きかけています。行事に合わせた献立やリクエスト食を年度末に提供するなど、食事からの学びや友達と一緒に食べる楽しみを経験する機会にしています。</p> <p>年齢に合わせた食育を提供して、子どもたちの食への興味が広がるよう支援しています</p> <p>食育計画では年齢に合わせて身に付けたい食習慣、体験などを盛り込んでいます。園庭の畑では年間を通して野菜や花を育てており、子どもたちが主体となり職員と一緒に水やりや収穫に携わっています。収穫したトマトでケチャップ作りやジャガイモでイモ餅作りをしたり、毎年味噌作りをしたりするなど、調理をして食べる楽しさも経験しています。本園の園庭では火を使うことができないため、焚火ができる近隣の広場を借りて芋煮会を楽しむなど、様々な体験を通して食への興味や関心が広がり、食べることが楽しみになるような食育を提供しています。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>保健計画を年間で立案して、季節や年齢に合った学びの提供や衛生管理に努めています</p> <p>保健指導を年間で立案することで、年齢や季節に合わせた学びや衛生管理を園全体で取り組む体制を整えています。保健指導は手洗い、うがい、歯磨き指導、5歳児クラスには性教育を行い、体調管理や自分の体の仕組みについて知ること、健康について関心を高められるようにしています。命についての学びでは、飼育しているニワトリの卵を販売するなど「命をいただく」活動で、生きることを学ぶ機会にしています。交通安全については警察署による指導を生かして、安全についての意識を高めて習慣化できるように、日々の散歩等で働きかけています。</p> <p>医療的ケアが必要な子どもには、マニュアルに沿って適切に対応する体制を取っています</p> <p>0歳児は毎月、それ以外のクラスは年2回嘱託医の検診の際に、発達について相談をして、支援方法や見守り体制を整えています。看護師不在のため、家庭からの聞き取りや体調変化に気づけるように子どもの表情をよく見て、変化があれば園全体ですぐに周知しています。夏の水遊びの前には救急救命について、冬場のノロウイルスなどの感染症が発生する前には嘔吐処理、園内消毒についての園内研修を毎年実施して、手順や注意箇所について確認をすることで、万が一の事態においても適切に対応できるよう努めています。</p> <p>保護者にはどろんこ会グループにおける、健康維持の取り組みを入園時に説明しています</p> <p>入園時に入園のしおりと重要事項説明書に記載のある、どろんこ会グループ及び園の健康維持に関する取り組みについて、保護者に説明をしています。睡眠時の呼吸確認の間隔、保育室内の湿度や明るさなどの環境面、布団回りや衣服についての留意点についても、園の基本姿勢を伝えています。感染症発生時には園内掲示や配信にて注意喚起をしています。毎月の保健だよりには免疫力を高める日々の生活習慣、裸足保育、薄着保育など、園の取り組みを紹介していくことで、丈夫な体作りや健康維持において家庭の協力を得られるよう努めています。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労状況や家庭環境に配慮して、個々に対応する体制を整えています</p> <p>急な残業などの保護者の就労の変化には、当日でも対応できるよう職員の体制を整えています。登降園時は職員からコミュニケーションを取ることで、信頼関係を構築していけるようにしています。個人面談は希望制で随時対応できるようにして、登降園時には時間を取りにくい保護者の話もゆっくりと聞ける時間を確保して、子どもに関わる相談や保護者の悩みについても相談できるようにしています。一人親家庭などで援助が必要な際には、職員から声をかけ、一人で抱え込むことがないように配慮しています。</p> <p>連絡帳やタイムラインにて、日々の保育の様子を保護者と共有しています</p> <p>2歳児クラスまではアプリの連絡帳機能を活用して、毎日の食量、排泄、睡眠など生活全般を園と家庭とで共有して、生活リズムを整えています。3歳児以上のクラスはタイムラインで毎日の活動内容、保育中の様子を配信して、園での活動への理解に繋げています。保育参加は行事など特別な事がない限りは年間を通して受け入れる体制を取り、友達や保育者との関わり、園の活動についての理解が深まる機会にしています。毎年参加率があまり高くないため、少しずつ参加率を高めていけるような声かけや環境整備を期待します。</p> <p>保護者懇談会や行事においては、保護者同士が交流できるように橋渡しをしています</p> <p>年2回実施している保護者懇談会では、年度始めは目指す保育についての説明を行い、2回目はこれまでの成長過程、進級に向けた話をして、家庭と協力して子どもの成長を見守る体制を整えています。懇談会では悩み相談や、休日の外出場所、質問時間など共通の話題を提供して、保護者同士で話し合う時間を確保することで顔なじみの関係性が広がるよう橋渡しをしています。行事では必要に応じて保護者に会場設営や準備の手伝い、園庭の築山を作り直す際にも有志を募集するなどして、保護者同士も行事を通して関係性が広がるよう支援しています。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の人々との触れ合いを通して、社会への関心が広がるよう支援しています</p> <p>どろんこ会グループでは3歳児以上のクラスが体験する商店街ツアーがあり、散歩の際などに近隣のお店を見学して地域を知る機会にしています。地域に向くことでどんな仕事があるのか、どんな人が暮らしているのかを知り、社会への関心が広がる機会にしています。毎月の銭湯の日には3歳児以上のクラスが銭湯に行って、職員と一緒に風呂に入りながら地域の方との交流を楽しんでいます。希望制ではありますが近隣の水泳教室などに通う際は、コミュニティセンターや公共バスを利用時の行動やマナーについても学んでいます。</p> <p>どろんこ祭りや地域支援事業では、地域の人に園へ足を運んでもらえる機会にしています</p> <p>子育て支援は園開放、子育て相談、着なくなった服のフリーマーケット「勝手籠」の設置、青空保育、制作などを楽しむ「芸術学校」、自然食堂、地域向けの広報誌「ちきんえつくだより」の発行など多様な活動を実施して、園の資源を地域に還元するよう努めています。近隣の高齢者施設とも今年度より交流が始まり、手遊びをしたり、行事で取り組んだ踊りを披露するなど、多様な世代との交流の機会を確保しています。夏に実施したどろんこ祭りには地域の人を含む多くの来園があり、ゲームや出店、本園名物の理科教室主催の展示を楽しんでいます。</p>		

調査対象

保育園を利用している77世帯を対象に調査を実施しました。在園児は98名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数	98
利用者家族総数(世帯)	77
共通評価項目による調査対象者数	77
共通評価項目による調査の有効回答者数	76
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	98.7

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が42人(55.3%)、「満足」が27人(35.5%)で「満足」以上の回答は合計69人(90.8%)でした。
 自由意見には、「担任以外の先生も子どものことを気にかけてくださったり、お話しして下さるところがとても良いと思います。温かみのある保育園だと感じています」「泥だらけで遊ばせたり、自由にさせて子どもの意思決定を大切にしたりと、本当にすばらしい保育を提供して下さり感謝しかありません」「商店街などへのお出かけ、食に関する取り組み、遠足など、小さなものも含めると様々な活動があります。そこが魅力的であり、子どもたちが楽しめるものになっています」「子どもは保育園の雰囲気と先生方が大好きみたいです」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。
 項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」で94.7%、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か」で94.7%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	72	4	0	0
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%でした。 自由意見には、「リズム遊びをはじめ子どもの心身の発達に必要な活動が多く組まれていて、さらにそれが子どもたちにとって負担のない程度であると感じています」「異年齢クラスを通じて小さい子を大切に作る気持ちや行動が身に付いていると思います」「長距離散歩のおかげで「歩く」ということ自体が好きになり、体力もついて体も強くなりました」「泥だらけになって遊んだり、動物のお世話をしたりと唯一無二の体験ができています」と思います」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	72	4	0	0
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%でした。 自由意見には、「リズム体操が大好きで、家でも歌を歌いながら見せてくれます。保育園で習った歌もたくさん披露してくれます」「理科室で勉強してきた話を家でもしてくれます。鶏の世話と卵の売り子も大変ながら楽しそうです」「天候の影響で外に出られない時も新しい製作を取り入れてくれています。持って帰ってくる作品も様々で、工夫してくださっていることが伝わります」「自分のやりたい活動を選ぶことができ、自主性が育っていると思います」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	66	9	0	1
「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が11.8%、「無回答・非該当」が1.3%でした。 自由意見には、「園では毎日おかわりしていると聞いています。味付け、見た目や提供方法に、子どもが魅力を感じる工夫がされているのだと思っています」「子どもが自分の食べる分をよそって食べることができるのが良いと思います」「毎日栄養バランスを考えた内容です」「いつもおいしそうなお献立です。また積極的に子どもが料理に関わるところが食育としてとてもいいなと思います」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	71	5	0	0
<p>「はい」が93.4%、「どちらともいえない」が6.6%でした。 自由意見には、「公園遊びや園庭遊びでは思い切り自然を楽しめていると思います」「高齢者施設の訪問や商店街の訪問など、家でできないイベントで学びの機会をつくってください。また、飼っているニワトリが先日亡くなった際もみんなでお墓をつくったり手を合わせたりして、死との向き合い方を学ぶことができました」「消防署の訪問などいろいろと工夫していただいています」「銭湯に行く取り組みは珍しくて良いと思います」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	64	5	0	7
<p>「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が6.6%、「無回答・非該当」が9.2%でした。 自由意見には、「先生方は嫌な顔一つせずに対応してくださり頭が下がる思いです」「用事がある遅刻する際も、何時でも受け入れてくださるので感謝しています」「急な預かり保育なども柔軟に対応してくださっているそうです」「何度か電話でお願いしたことがありますが、いつも快くご対応いただけています」「いつも優しく柔軟に対応いただきありがとうございます」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	39	27	8	2
<p>「はい」が51.3%、「どちらともいえない」が35.5%、「いいえ」が10.5%、「無回答・非該当」が2.6%でした。 自由意見には、「先生方の努力で対応できる面は既に十分対策し尽くされています」「問題が起きたであろうタイミングで、保護者へのお願いの発信や環境設定の変更などスピーディーに対応していると感じます」「子どもが安全を意識できていると思います」などの声がありました。 その一方で、「設備の改修が十分とは言えません」「目が行き届いているか心配な時があります」という意見もありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	72	4	0	0
<p>「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%でした。 自由意見には、「予め年間行事で把握できているので、予定を立てやすいです」「今年度は以前よりも早めに周知していただいているように感じ、とてもありがたいです。準備物などは早めに把握できるに越したことはないで助かります」「仕事を休まなければいけない行事がなく助かります」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	64	11	1	0
<p>「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が14.5%、「いいえ」が1.3%でした。 自由意見には、「園での子どもの様子が分かる丁寧な連絡帳を書いてくださりいつも感謝しています。担任の先生に気になる変化を伝えると、園でも注意してみてくださいとも信頼できます」「連絡帳に悩みを書くと必ず回答をくださいます。また、経過についても都度ご報告くださいます。今年は個人面談も開催してくださり、子どもの園での様子を細かく知ることができました」「いつも親身になってくださり、嬉しく思います」などの声がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	62	11	2	1
<p>「はい」が81.6%、「どちらともいえない」が14.5%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」が1.3%でした。 自由意見には、「全体的に整理整頓されていてすっきりとしている印象で、見たことがある範囲においては乱雑な様子は見受けられません」「先生方がおもちゃを消毒してくださっているのを見ているようで、子どもが家でもおもちゃをティッシュやタオルでゴシゴシ拭いてくれます」「建物は新しいですが、泥遊びを推している園なのでどこもかしこも清潔というのは難しそうです」などの声がありました。</p>				
10. 職員の待遇・態度は適切か	67	8	1	0
<p>「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が1.3%でした。 自由意見には、「先生が皆さんいつもニコニコして話しかけてくださり、幸せな気持ちになります」「フットワークが軽く、明るくテキパキ動く方が多いです。声かけも丁寧で、挨拶も積極的にしてください」「保育士の先生に対する研修がされているのか、こちらからのアクションに対する対応・返答も園の方針に従ってどの先生も一律で、安心感があります」「いつも温かい声かけが嬉しいです」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	64	11	1	0
<p>「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が14.5%、「いいえ」が1.3%でした。 自由意見には、「小さなけがでも伝達時にきちんと伝えてくださいます」「些細なことでも報告していただき安心できます」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	56	14	5	1
<p>「はい」が73.7%、「どちらともいえない」が18.4%、「いいえ」が6.6%、「無回答・非該当」が1.3%でした。 自由意見には、「けんかの原因は何だったのかきちんと子どもたちに聞いて、何がだめだったのか、次はどのように伝えるのか伝えてくださっていると感じています」「子どもたちがどうしてそうなったかしっかり説明いただけていると思います」などの声がありました。 その一方で、「子どもの気持ちには寄り添ってくださっていると思いますが、事実をどこまで把握できているかは分かりません」という意見もありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	65	9	2	0
<p>「はい」が85.5%、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が2.6%でした。 自由意見には、「どの先生も子どもと仲良しな感じがするので、気持ちを尊重した対応してくれているのだと思います」「子どもの思いを尊重してくれて、必ずみんなと同じ行動をしてなくてはならないということがなく、個人に合わせてくれる保育園であると思います」「子どもたちのやりたい！挑戦したい！という気持ちを汲み取って柔軟に対応して下さいます」「子どもの気持ちに寄り添い、プロとして関わってくださっています」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	64	9	1	2
<p>「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が1.3%、「無回答・非該当」が2.6%でした。 自由意見には、「守られなかったと感じたことはありません」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	67	7	2	0
<p>「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が9.2%、「いいえ」が2.6%でした。 自由意見には、「懇談会で詳しく説明して下さるのでわかりやすいと思います」「いつも丁寧に詳細を教えていただき、保育園での子どもの様子を想像でき親としても安心して預けられます」「誰とどんなことをして遊んでいたのか、どんな活動をしたのか、何を食べて何時間寝たのか、詳細に伝えていただき満足しています」「写真をたくさん見られたり、連絡帳の記載も丁寧です。仕事の合間に子どもを見られると励みにもなります」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	63	11	0	2
<p>「はい」が82.9%、「どちらともいえない」が14.5%、「無回答・非該当」が2.6%でした。 自由意見には、「先生にお願いしたところすぐに対応を変えてくださり感謝しました」「伝えたことは受け止めてくださっています。なかなか解決につながらないこともありますが、努力してくれているのは感じます」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	39	27	8	2
<p>「はい」が51.3%、「どちらともいえない」が35.5%、「いいえ」が10.5%、「無回答・非該当」が2.6%でした。 自由意見には、「積極的に周知しているわけではありませんが、掲示などはされています」などの声がありました。 その一方で、「知りませんでした」という意見もありました。</p>				

株式会社学研 Advance
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証